



## 5/3 2022年憲法フェスティバル 報告

## 涙を誘ったカテリーナさんの歌声



2022年憲法フェスティバル（憲法は希望と平和の羅針盤）は、25年目にして初めて水戸を離れ、つくば国際会議場で開催されました。県内各地から約400名が参加。オープニングはつくば市出身デュオのギターとヴァイオリン演奏、エンディングはウクライナの民族楽器バンドウーラ奏者のカテリーナ・グジーさんが同国の子守歌「幸せの鳥」、日本語による「翼をください」などを披露。アンコール曲に唱歌「ふるさと」をアカペラで歌い、ロシアによるウクライナ侵略の一日も早い停戦とロシア軍の撤退を願う切実な思いが会場に溢れました。

## ■田村武夫実行委員長 開会挨拶

田村武夫実行委員長は「このようにウクライナ国民も音楽をいつでも聴くことが出来るようになることを祈っている。憲法を守り、生かしていく県内の運動を広げていきたい。まったく理不尽で許しがたいロシアの侵略を満身の怒りを込めて、ただちに撤退しろと叫んでいる人たちと連帯する」、そして「ウクライナのように攻められたらどうするという国民の不安な気持ちに付け込んで“軍事には軍事”の声がある。しかし、日本が先制攻撃をしない、攻撃されない国づくり、その証明は9条にある。立憲野党にがんばってもらい、攻められない国にするために、憲法改悪反対署名、参議院選をがんばりましょう」と挨拶しました。

## ■岡田正則氏 記念講演概要

記念講演のテーマは「憲法と学術と平和 –学術会議任命拒否問題から見えるもの–」。岡田正則早稲田大学院教授は、日本学術会議会員として推薦されたにもかかわらず菅義偉前首相によって任命拒否される。そこに至った経過と理由、今後の展望などについて講演されました。（以下、概要を報告します）

日本学術会議は1949年に設置されて以降、「戦争を目的とする科学の研究には絶対従わない決意の表明」を50年、67年、2017年と3回おこなった。2015年、憲法学者のほとんどが安保

関連法に反対したが成立した。さらに政府は安全保障技術研究推進制度を創設。この制度の導入以後軍事研究が推進されるようになっている。任命拒否の理由について菅前首相は「総合的・俯瞰的な観点」から「人事に関することなので答えられない」と次々と理由を変えた。岸田首相は、任命拒否された6人を任命することが出来るが、「介入の真の目的を隠蔽したまま」、任命していない。任命拒否は、日本学術会議法と憲法23条「学問の自由」に違反している。憲法は「人類の失敗の記録」と憲法学者の木村草太氏は言っている。戦前、滝川事件や天皇機関説事件など学問の自由を否認する事件によって、学問は政治の付属物になり失敗した。その反省から、学術会議は政治が介入しないように独立した組織となった。

任命拒否問題は、個人の人権が侵害されたとして2021年4月、1,162名の法律家が情報公開請求、拒否対象の6名も自己情報開示を請求したが、内閣官房は「文書不存在」、また内閣府は「存否応答拒否」と回答している。いずれも無責任であり、理由を示さないのは権力によるパワーハラスメント。ロシアによるウクライナ侵略や軍事的支配の下で苦しめられている沖縄・在日米軍基地問題も国家によるパワーハラスメントだ。

任命拒否は、6名の問題だけではない。学問の自由が担うべき「社会的公共」－（核兵器を作るなどやっていいこと、やってはならないことを専門家が決めるなどのこと）を政治の場に反映させるしくみが必要となっている。

## ■1万5千円のウクライナ支援金集まる

県平和委員会事務局は、缶バッチ及びひまわりとハートマークのブローチ、岸田批判パンフを販売しました。収益金から缶バッチ等の制作費を差し引いて1万5千円の支援金が集まり、これまでの支援金と合わせて国連難民高等弁務官事務所に送金します。（篠原 睦）



## 「憲法改悪を許さない全国署名」

## 518筆集まる！

ロシアによるウクライナ侵略に関する解説者として、防衛省・防衛研究所の所員がNHKや民間放送のニュース番組に登場している。防衛省の存在をアピールするかのようにつ引っ張りだこだ。これまでは大学教授等の専門家に解説と今後の状況や国連の役割などについてコメントを求めていたのに、ロシアの「力による現状変更」は身近にある問題とし、「国防」意識を持た

せようとしているのかもしれない。「政府の行為によって再び戦争」をさせないために、憲法9条にもとづく平和外交と核兵器廃絶が求められています。

■憲法改悪を許さない全国署名は、5月3日までに518筆集まりました。かすみがうら平和の会（22筆）・友部平和の会（45筆）・おのみや平和の会（143筆）・美和・緒川・御前山平和の会（250筆）を含む6団体、3人の個人が獲得した署名用紙を送ってくれました。署名活動は継続しています。

次の集約日は6月12日＝県平和委員会定期大会とします。

# さらなる汚染をさせないためにも原発は廃炉に!

## ●小出裕章さん講演会に420名(常陸太田市)

小出裕章さん▶  
(講演会チラシより)



「小出裕章さん講演会実行委員会」(共同代表 村上達也元東海村長等4人)が主催した講演会が5月7日(土)常陸太田市民交流センターで開催されました。420名が参加。小出裕章さんは京都大学原子炉助教として定年退職され、「原発事故は終わっていない」などの著書でも知られています。1949年東京生まれ。現在は長野県松本市在住。演題は「日本の原子力開発と東海第二原発の再稼働」。パワーポイントを使い、34枚の具体的な資料に沿って説明がなされました。

### ■未来の人たちのために原発は廃炉に

「日本は全国17か所に57基も原発を建ててしまった。本当はやってはいけないことをやってしまった」「57基の原発はすべて自由民主党が政権を取っている時に認可された」「未来の人たちに、さらなる汚染をさせないためにも原発は廃炉に、そして止めさせなければならない。東海第二原発は再稼働させてはならない」、と訴えました。

2023年から「放射能汚染水」(政府は処理水と説明)を海洋放出する。汚染水にはトリチウム水が含まれており、「トリチウム水は水そのものであるため、決して放射能を除去できない」。地球は水の惑星と言われているが、「水を汚すことは究極の汚染」である。しかし、漁民がどんなに反対

しようが、世界の国がどんなに抗議しようが、日本という国は放射能汚染水を海に流す。なぜなら、海洋放出しなければ、日本の原子力は崩壊するからだ。自民党が原子力にしがみついている構造的な問題についても明らかにし、厳しく批判しました。

### ■講演後の質疑応答

ロシアによるウクライナ侵略によってチェルノブイリ原発、ザポリージャ原発が占拠されたことについては、「国家が軍隊を持つことに反対する。ロシアの侵略には徹底的に反対だ。戦争は何が起きるか分からない。原発は本当に心配だ。戦争になったら悲惨だ。原発は世界中で止めなければならない。戦争について心配するなら、原発は止めよう」、また「3・11東日本大震災によって福島原発事故が起きたが、東京電力の関係者、加害者は誰一人として責任をとっていない、どんな悲惨な事故が起きても誰一人責任を取らない、という教訓を得た。怖いもの知らずとなった。これからも金儲けをする」と小出裕章さんは語りました。

### ■東海第二原発は、再稼働させてはならない

東海第二原発は、日本原子力発電株式会社(略称:日本原電)が所有しています。日本原電は、東京電力・関西電力等電力会社9社が株主。日本原電の「金儲け」は東海第二原発の再稼働のみとのこと。しかし東海第二原発は44年経過した老朽原発。このような原発は再稼働させてはならないと意を強くしました。(篠原 睦)

寄稿



## 第93回メーデー

# 労働者の要求も戦争ではなく平和の実現!

茨城労連事務局長 岡野 一男

今年のメーデーについては4月2日と20日にメーデー実行委員会を開催して準備に当たりました。20日の会議では、シュプレヒコールやメーデー宣言について時間をかけて検討しました。司会進行は、医労連の安本さんがやってくれることになり、シュプレヒコールは医労連の松崎さんが、宣言案の提案はいばらきコープ労組の市原さんが担当しました。5月1日は天候が悪くなるという天気予報でしたが、メーデーを開催している時間は雨も降らず風も吹きませんでした。記念写真が撮り終わって後片付けをしている時間に雨が降り出しました。

今年のメーデーの参加者は21組織47名で、県労働政策課から課長のメッセージが届き、代読しました。県とし

ても最低賃金の引き上げの取り組みをしているという一文がありました。メーデーは、民主団体、労働組合の順に決意表明がありました。ロシアによるウクライナ侵略から労働者・国民の生活が困難になっていますが、労働者の要求実現の観点からも「戦争ではなく平和」の声が上がりました。シュプレヒコールの後に白石議長から閉会挨拶と団結頑張ろうがありました。最後に記念写真を撮りました。

今回のメーデーは、高教組の国井さんに動画を編集していただき、ユーチューブにアップしました。ユーチューブで「茨城労連動画用」で検索すると動画を見ることができます。